

YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY



2023-24年度 RI会長／ゴードンR.マッキナリー
RI.D2590ガバナー／樋口 明
横浜旭RC会長／田川 富男



ウクライナ避難民支援



ポリオ撲滅運動
パキスタンにて

国際ロータリー第2590地区
横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区二俣川1-37-3 NUTS1階／〒241-0821
TEL.045-465-6702／FAX.045-465-6712
http://yokohamaasahirc.cho88.com
Email:asahirc@titan.ocn.ne.jp
例会場 二俣川相鉄ライフ4Fコミュニティサロン
例会日 月3回水曜日／12時30分～1時30分

2024年3月6日 第2536回例会 VOL.55 No.25 横浜瀬谷RCと合同例会〈ローズホテル横浜〉

■出席報告

会員数	19名	本日の出席数	14名
本日の出席率	77.78%	修正出席率	63.16%

■本日の欠席者

草柳、目黒、宋、関口

■ビジター

樋口 明様 (第2590地区ガバナー)
佐々部宣宏様 (第2590地区第5Gガバナー補佐)
黒田 隆嗣様 (第2590地区幹事)
渡辺 真多様 (岩沼ロータリークラブ)

■ゲスト

間室 豊様 (五十嵐会員のお客様)
吉原 貞行様 (新川会員 ")
大塚 秀樹様 (岡田会員 ")
関澤 信吾様 (佐藤真会員 ")
佐藤 一志様 (佐藤真会員 ")
宋 潤坤さん (米山奨学生)

■卓話「イタリアから学ぶ避難所のあり方」
災害関連死を防ぐキーワード「TKB48」とは
避難所・避難生活学会

Jパックス(株)代表取締役 水谷 嘉浩様
ご紹介に預かりました、Jパックスの水谷と
申します。よろしくお願ひします。早速ですが、
大規模災害の際避難所というものが立ち上げら
れます。ここで、戦前関東大震災移行の避難所の
様子をご覧ください。今から100年前のアメ

戦前の避難所の光景



1930年 北伊豆地震



1923年 関東大震災

近年の避難所の光景



1995年 阪神淡路大震災



2011年 東日本大震災

最近の避難所の光景



2016年 熊本地震



2018年 西日本豪雨



リカのスペイン風邪の際の避難所には当時からベッドがありました。2020年の熊本人吉水害の際100年たってやっと早い段階で全員分ベッドが用意されるようになりました。日本もやっと追いついたかなと感じた訳です。

ただ、そもそもベッドはどういう役割があるのかということ、古代竪穴式住居とかそういう時代から地面に人間は寝ないんです。何故かと言へば、寒さであったり、水が侵入してきたり、あと害虫、害獣ネズミとかですね、ムカデとかで、という事で一段高くして寝て居た訳です。そこに天蓋がついて虫や蚊をよけたりして、それが6個とか集まったのが和室だそうです。これは文献があります。よくよく考えてみると和室は1段高いですよ。靴を脱いで上がりますので、そもそも床に寝ているわけじゃなくて畳の上に寝てる日本人なんです。ということでベッドは実は使ってたってことです。その古跡がありました。吉野ヶ里遺跡、竪穴式住居です。これはレプリカなんですけども、中を覗きますとベッドがちゃんとありましたし、右の写真は家形埴輪で、八尾市と書いてありますが、実は私の近所で、そこで出土したものです。中を覗くとベッドがあるんですね。という事は弥生人は少なくとも床には寝ていないと言えらると思います。

能登半島地震が1日、元日に発災。私実は娘が今カナダに留学しててトロントにいたんですね。3日に帰国して5日には能登に入りました。40日間能登で活動してきました。やはり雑魚寝なんですけども、このようにベッドを入れました。

ただし、能登町は防災協定があったということで非常にスムーズに行っただけなんですけども、それ以外の市町が全くダメでした。先ほど人吉では随分早く入るようになったって言ったんです

100年経ってやっと追いついた



実は、和室はベッドの集まりだった

参考 小川光晴著「昔からあった日本のベッド」



寒さ・水・害虫・害獣対策 日本人も土間には寝ない

弥生人は床に雑魚寝はしていない!

吉野ヶ里遺跡 (佐賀県)



美園遺跡 (八尾市)



能登半島地震 一刻も早い雑魚寝の解消を!

- 行政は雑魚寝が健康被害をもたらす事知らない
- プッシュ型も導入に大幅な時間がかかっている
- ニーズを調査している (全員が原則)



1ヶ月以上雑魚寝が残る避難所

防災協定の存在により
早期にベッド化された**能登町**

多くは従来型の簡易トイレ

全国の自治体が提供したトイレカー



- 和式で内部が狭い
- 電灯もなく不用心
- 強烈な臭いで耐え難い
- 手洗いが無く不衛生
- 床の汚れなど不衛生
- 子供がトイレを怖がる
- 段差があり不安定
- 高齢者には使いづらい
- 洋式トイレで清潔
- 内部が広い
- 断水の場合はバケツ水
- 階段があり高齢者には使いづらい

けども、実は能登では東日本大震災の頃に戻っていつてしまっている。多くの支援者、医療関係者が怒っていたというか、本当にどうしたものかというような状況で、実はなかなか能登は厳しい状態だったということです。

そしてトイレなんですけども、このように工事現場で使うような簡易トイレですね。こういうのが沢山来てました。ただ右のトイレトレーラーみたいなのが各自治体が購入をしてたのが結構集まってきたんですね。これ清潔で使いやすくして良かったんですけども、この問題がこの階段なんです。高齢者が使えないんです。はっきりいって高齢化率がもう50%超えてるんです。みんなおじいちゃん、おばあちゃん。手押し車押してる高齢者が多いんですけども、使えないというようなことも今回ありました。

食事なんですけども、多くのボランティアが炊き出しということで、割と受け入れてました。過去の災害では炊き出しを一切受け入れないという方針の自治体もあったんですけども、今回はOKということです。ただし実は、その災害救助法っていう、災害支援は全て法律に則って行われているんですけど、災害救助というのはいろんな生活物資とか国がちゃんと支払いますよという法律があるんですけども、今回能登の場合はですね、災害救助法をうまく活用できてない。要はボランティアは受け入れますよ、もっと言いますと、ただなら受け入れる。というスタンスなんです。これ非常に暖かい気持ちで来てくれるのはいいんですけども、ちょっと問題がありまして非常に不安定です。要は材料なくなったら帰っちゃいますし、最初は毎日だけど、そのうち土日だけとかなってですね。またレトルトに戻ったり、カップラーメンに戻ったりするんですね。そうではなくて、しっかりとした救助法があるので活用して、食事をしっかり、ちゃんとしたものを継続的に出すということが必要じゃないかなというふうに思います。

過去に西日本豪雨災害にありました。この時は炊き出しが余り来ていなかった。出た物はメロンパン、おにぎり、カップラーメン。しばらくしたらコンビニ弁当。なんとメロンパンが4ヶ月出ました。食べれますか？4ヶ月ですね。一日一回、二回出たら食べれなくなるんですけど



K 従来の避難所の食事 西日本豪雨

- ・メロンパンとくるくるデニッシュが4ヶ月
- ・目先の安全性とコスト最優先で生産する工業製品
- ・コンビニ弁当のローテーション
- ・ボランティアに依存した不安定な炊出し



野菜ジュースが用意されるが、はたして野菜なのか？

ども、ずっとこれが出てくるんですね。

ということでベッド・トイレ・食事の話をしました。もう一度雑魚寝の話に戻りますが。雑魚寝は健康被害をもたらしますが、特にエコノミークラス症候群、聞いたことあると思います、足に血栓が出来るのです。高齢者が生活不活発病、寝たきりになっちゃうんです。あと床のほこり、頭がこの地面にありますのでほこりを吸っちゃったりですね。今回も冬の災害ということで、低体温、凍死されてる方もいらっしゃいます。非常に厳しい、雑魚寝とはまづい状態なんですね。

エコノミークラス症候群は3つの原因があると言われてて、1つは動かないってことですね。長期間じっとしていると、そして脱水。水分が足らなくなる。あとストレスとか、過度のストレスとか、外傷ですね。怪我、なんですけども、

雑魚寝が引き起こす健康被害

- ・活動性の低下によりエコノミークラス症候群を発症
- ・活動性の低下により生活不活発病を発症
- ・不衛生な床の埃を吸引して呼吸器疾患を発症
- ・体の冷えから低体温症を発症
- ・被災した不安や生活の騒音振動により不眠
- ・ストレスからの血圧上昇など
- ・プライバシーがない状態での共同生活

エコノミークラス症候群とは

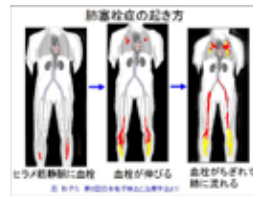
避難所は三拍子揃ってます。車中泊とか雑魚寝。このライオンと縞馬の写真をご覧ください。これは何かというと動物は命の危険が迫ると、失血死を防ぐために血は固まろうとします。それが血管内に起きる。これがエコノミークラス症候群ということなんですけど、皆さん高齢者がなりやすいと考えておられる方も多いんじゃないかなと思っていられると思いますが、ちょっと見づらいいんですけども、中越地震のエコノミークラス症候群の症例なんですけども、赤が死亡です。亡くなっています。黒が生存といいますか、病院で治療が出来たんですけど、実はエコノミークラス症候女性が多いです。男性もなりますけど女性が非常に多い。さらに高齢者よりも40・50代の女性が多いです。若いとか現役バリバリの女性がこのエコノミークラス症候群で亡くなっています。熊本地震では30代のお母さんですね、子供もいらっしやったかと思うんですけども、30代の方が亡くなっているということで、実は高齢者だけではないということです。

これは北海道胆振東部の地震ですが、厚真町と安平町隣り合った街があるんですけども、実は厚真町は段ボールベッドの存在を知っていて、すぐに入れたんですね。発生5日目には全員ベッド使いました。隣の安平町では存在を知らなくて、中々入らなかったわけなんです。その結果血栓が1：3。ベッド入ると少ないんです。今回の能登町も輪島とか珠洲に比べるとベッドが早く入りましたので、1/2位ですね、少ないというのは分かっていますので、血栓症は災害時の非常に大きな問題になるということが言えると思います。

災害関連死という言葉ご存知でしょうか。災害そのもので亡くなるんじゃなく、避難所で二次的に亡くなっているということなんですけども、平成の30年間で約5000名亡くなっています。これは災害関連死自体は、医学用語でもなく法律用語でもない行政用語なんです。要は災害弔慰金、お見舞い金を支払われた人が災害関連死とカウントされるんですけども、5000名と言いますが、おそらくそもそも申請していない方が沢山おられる、申請しても却下される方が沢山おられる。多分何万人もいらっしやるのではないかと思います。いずれにして

- ・ ウイルヒョーの三徴
- ・ 同じ姿勢を長時間
- ・ 水分食糧不足で脱水
- ・ ストレス・怪我

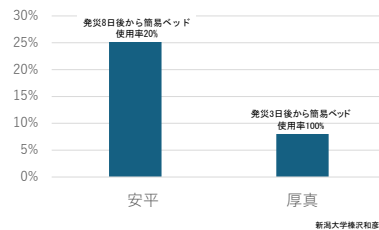
避難所は三拍子揃っている



2004年 新潟県中越地震後の肺塞栓症 (県内100床以上の病院調査)

年齢	日数	車種	乗車	発症日	予後	入院先	夜間トイレ
79 女	14日	セダン	後部	11/7	生存		有り
76 女	2日	セダン	後部	10/25	生存	有り	有り
75 女	3日			10/31	生存		
71 女				11/2より前	死亡		
67 女	2日			10/25	生存		
64 女	5日			10/28	生存		
64 女	4日			10/27	生存		
60 女	14日	セダン	後部	11/7	生存		有り
50 女	6日	軽自動車		10/29	死亡	有り	無し
50 女	2日			10/25	死亡		
48 女	5日	ワゴン	運転席	10/28	死亡	有り	無し
47 女	5日			10/28	死亡		足が不自由
46 女	2日			10/29	死亡		
43 女	4日	軽自動車	後部	10/27	死亡	有り	無し

2018年北海道胆振東部地震発災11日後までのDVT検診結果(9.11-18)



2014年の広島土砂災害や、2015年の常総水害も同じ傾向であった

災害関連死

平成の4,958人は一つの大災害に匹敵する

年次	災害	死者数	死者	死者比率
79年	新潟県中越地震	921	6,422	14.7%
16年	中部地震	52	68	76.5%
19年	中部地震	4	15	26.7%
21年	中国地方地震	5	25	14.3%
22年	東日本大震災	2,301	28,122	16.7%
22年	伊予地震	8	98	8.2%
26年	岡山地震	3	37	8.1%
27年	東海地震	12	27	44.5%
28年	熊本地震	218	213	76.5%
29年	台風10号	4	32	12.5%
29年	九州北部豪雨	1	44	2.3%
30年	大阪府北部地震	2	4	50.0%
30年	西日本豪雨	28	258	10.5%
30年	北海道地震	1	42	2.4%
	合計	4,958	28,527	16.5%

復興庁発表

「東日本大震災における震災関連死に関する原因等」について

原因	人数	割合
避難所での死亡	28	97
避難所からの帰宅途中	13	21
避難所からの帰宅後	205	112
避難所からの帰宅後(自宅)	433	38
避難所からの帰宅後(自宅)	34	1
避難所からの帰宅後(自宅)	110	65
避難所からの帰宅後(自宅)	105	94
避難所からの帰宅後(自宅)	639	51%
避難所からの帰宅後(自宅)	1,956	30%
避難所からの帰宅後(自宅)	215	12%
避難所からの帰宅後(自宅)	65	3%
避難所からの帰宅後(自宅)	864	44%
避難所からの帰宅後(自宅)	1,239	61%
避難所からの帰宅後(自宅)	1,956	100%

災害関連死の約51%が劣悪な避難所環境が原因

も行政で受理された方が、災害関連死なんです。

災害関連死は復興庁が調査をしています。原因は色々あります。その中で避難所の環境が悪くて亡くなったというのが51%いらっしゃるんですね。約半数が避難所環境が悪くて亡くなる。これを逆手にとって避難環境を良くすれば、この災害関連死がなくなるんじゃないかなという風に考えて活動を開始したわけです。

これでやっとイタリアの話になりますが、避難所環境で色々あるんですけども分かりやすく言うとTKB48、つまりトイレ・食事（キッチン）・ベッドを48時間以内に届けるということなんです。イタリアではトイレにシャワーがちゃんと併設されてて、洗濯機とか乾燥機が一緒に来るんです。キッチンカーが来て、必ず食堂でご飯を食べるんです。そしてベッドですね、生活空間です。

これをTKBとっているんですけどイタリアは準備がすごく出来ているんです。例えば備蓄拠点、これはアブルッツォ州と言うローマから2時間ぐらい走ったところなんですけども、イタリア赤十字が管理している、左側の写真です。面積がなんと日本の地方空港位でありまして、このクラスの備蓄基地が、イタリア全土で5ヶ所。さらに州に同じように大規模な備蓄倉庫があります。さらに県とか基礎自治体にもあります。沢山見てきましたが、いくつあるか分からないくらい備蓄をちゃんとしてるんです。何を備蓄しているかと言いますと、先ほど言いましたTKBなんですけども、このようなトレーラーとかバス、ボランティアを運ぶバス。全部自分で持ってますし、完全に物流倉庫です。衣服の備蓄もありますが、日本は衣服備蓄ないですから。どこもやってません。例えば水害で濡れても、着替えもないんです。後で届くみたいなイメージですね。こういう物流倉庫が点在してます。

日本はそもそも、日本中から物資が来て、バケツリレーをやってます。今でもやっています。イタリアは全部ホークリフトでやります。当たり前なんですけど、何故災害になったら手でやるの？って思うんですけども、残念ながら日本とイタリアでは設備面で全然違います。もう少し詳しく見ていくと先ほど言ったトイレがコンテナトイレなんですね、シャワーも併設してい

イタリアの事例

避難所の環境はTKB48(h)

T = トイレ、シャワー (衛生)

K = キッチン、食堂 (栄養)

B = ベッド、生活空間 (睡眠)



巨大な備蓄拠点が点在

Croce Rossa Italiana Operativo Emergenze

兵庫県但馬空港



イタリア赤十字が管理する備蓄倉庫

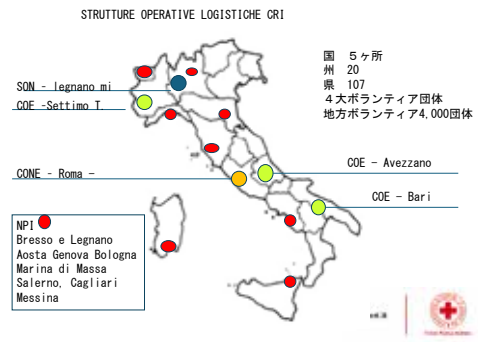
3,000人が長期避難生活を不自由無く過ごせる資機材を備蓄 (10ユニット)



トラックバスも多数保有

衣服の備蓄

物流倉庫に資機材を保管



アブルッツォ州の備蓄基地



- ・コンテナが100基
- ・トイレシャワーがセット
- ・空調付き



て、電気もあるんです。日本のトイレ電気ないですから暗いです。夜中行けないです。さらにエアコンも付いてます。

このコンテナが先ほどのアブルッツォ州備蓄基地だけで100台。便器の数でいうとおそらく400とか500ありますので、ここだけで1万人分の備蓄がありました。次に食事なんですけど、先ほど言いましたキッチンカーが来るんですけども、このように普段食べてるものと同じものが出てきます。イタリアでは1食当たり7ユーロ(1,100円位)日本は一日で1,180円。これでも値上がりしまして、ここ2年ぐらい前に20円上がって、20円ですよ！それまでは1,160円だったんですけど、1,180円になりました。時にはワインも出たり、そもそも生野菜、日本では絶対出ません。

何故そういうことが出来るかと言えば、料理を下さる方が、普段レストランで働いてる本職の方なんです。この方たちが、我こそはということでボランティア。ボランティアというのは無償支援っていうものではなくて、本来は志願という意味ですね。志願をして、しかも訓練を受けてですね、60時間と言っていました。訓練を受けて災害支援に関わる。そして食堂をわざわざ作るんです。食堂も運んできます。テーブルとか。これ何かと申しますと、食寝分離と言いまして、皆さん家で4LDKといいますが、LDKとは食寝分離という意味ですけども、食寝分離のために必ず食堂を作ります。日本は雑魚寝で自分のスペースにお弁当持ってきて食べますよね。自分のスペースで。ポロポロ食べこぼしますよ。そうすると衛生的にも悪くなるということで、このようにイタリアは本職が作って提供してます。

住む場所はテントなんです。テントと言っても軍隊で使うような非常に丈夫なもので、中にはベッドがあって、家族単位で入れるということなんです。これがイタリアは全て標準化をします。先ほど全国に備蓄基地があったってと言いましたが、全部同じ機材を使っています。これが後で説明しますがすごい効いてきます。日本は標準化が出来ていません。という風にイタリアではTKBがしっかりと備蓄されている。

さらにおもちゃとかですね。このトレーラー何かというと、乳児用です。ハイハイしてる

K キッチンカーによる温かい食事の提供

- ・イタリア 1食当たり1,134円(7ユーロ)
- ・日本 1食あたり393円(1,180円/日)
- ・完成品の調達ではなく食材の調達
- ・出来るだけ美味しい食事を提供
- ・食事が被災者を元気にする
- ・60時間の研修を受けた調理師



K アブルッツォ州ペンネ市の避難所設営訓練

- ・食堂を設けることで食寝分離されている
- ・給仕されるので避難者は列に並ばない
- ・レストランの料理人による食事の提供



B アブルッツォ州ペンネ市の避難所設営訓練



- ・1ユニットで250名収容
- ・支援者は50名
- ・合計300人が長期生活
- ・設営から撤収までの費用は国の負担



臨床心理士による子供のPTSD 予防活動



ゲートでのIDチェック

- ・発災後48時間以内に臨床心理士による精神的なケアが始まる
- ・母親と乳幼児専用のトレーラー
- ・避難所の出入りをIDで管理

ような赤ちゃん専用のトレーラーです。子どもたちの精神的なケア PTSD ですね。これも全て48時間以内ですよ。1ヶ月過ぎてからではないですよ。48時間以内に来るんです。子どものケアも同時にしますし、臨床心理士、専門家がちゃんと入ってきます。

イタリアは何故こんなに進んだ災害支援をできるようになったのかっていうことですが、キーは市民保護局というのがありまして、政府

の内務省の中にこういう部局がしっかりあります。ちなみに日本は防災専門の省庁ありませんので、内閣府で防災担当というので90名ぐらい人数いるんですけども、ほとんどが出向者でプロパーはいません。

何故イタリアはこんな進んでるか、そもそもイタリアは非常に災害が多いです。例えば100年前にシチリア島と本島との間のメシーナという所がありますが、ここで大地震があって津波が発生しています。この時に約10万人が亡くなったと言われております。東日本大震災の5倍です。水害も多いですし、あと火山ですね。日本以上に災害が多いということなんですけども、1980年にイルピニア地震が発生しました。3,000名位亡くなり、1万人位が怪我したと言われております。その時にイタリア中から災害支援来たんですけど、情報がうまくコントロールできず大混乱になったんです。これをイタリア政府は大失敗と認めているんですよ。そこで当時のペルティエニ大統領がこれではダメだということで、非常に強いリーダーシップで災害支援に関して政府としてちゃんと取り組もうということでイルピニア地震をきっかけに市民保護局っていうのを作ったわけなんです。その時に「たった1人の犠牲者も出さない」という1つの強いメッセージを出したわけなんです。実はイルピニア地震もそうなんですけど、その翌年にちょっと悲しい事故が起こっちゃったんです。この悲劇、ヴェルミチーノの悲劇って言うんですけども、6歳の男の子が行方不明になりました。3日後に見つかったんですけど、なんとですね直径30cmの井戸に落ちちゃって30m位の地中で見つかったそうなんです。当然全力で救出しようということで、テレビ中継入ってですね、やったそうなんですけど、結局助からなかったそうなんです。このイルピニア地震と男の子が亡くなったことで、このペルティエニ大統領は「たった1人の犠牲者も出さない」というものすごい強いメッセージでその市民保護局を立ち上げたという経緯があるそうです。

市民保護局自体は災害の予測であるとか、事前準備・速報・復旧の4つの内容ですが、その大きな核というところでTKBトイレ・キッチン・ベッドを48時間以内に設置して被災者を収容するというので、私は紹介にもありましたけ

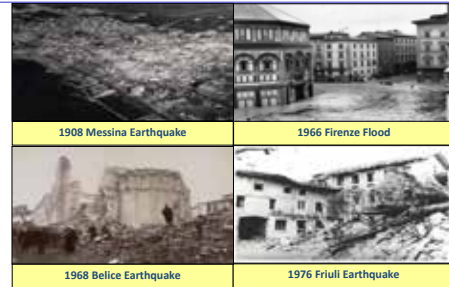
THE ITALIAN CIVIL PROTECTION SYSTEM イタリア市民保護局



Carlo Centofanti
Italian National Civil Protection Department
International Relations and Operations Unit
www.protezionecivile.it
international@protezionecivile.it

Presentation to Japanese Delegation
12th April 2024

A LONG HISTORY OF LESSONS LEARNED 学んだ教訓の長い歴史



THE BORN OF A SYSTEM システムの誕生



1980年11月イタリア南部でイルピニア地震が発生。約3千人が死亡し約1万人が負傷。
 ・支援は大規模だったが十分に調整されず被害が拡大した。
 ・ペルティエニ大統領は、緊急事態管理に関する充実が必要だとして国家レベルで見直しを指示し、この際に「たった1人の犠牲者も出さない」という共通認識が醸成された。
 ・イタリア市民保護局は1982年4月29日に設立された。

ヴェルミチーノの悲劇

1981年6月10日、6歳の少年が直径30cm深さ80mの井戸に転落。ローマから駆けつけた消防隊の救助が始まったが、3日後の6月13日に救助活動も虚しく少年を助けることができず死亡が確認された。その様子は、テレビ中継されイタリア全土で注目を集めた。現場に駆けつけていたペルティエニ大統領は、災害支援や人命救助などの緊急事態管理に関する充実が必要だと認識して、イルピニア地震の対応とも合わせて、国家レベルで見直しを指示した。この際に、「たった1人の犠牲者も出さない」という災害支援者の共通認識が醸成されたようである。



第7代イタリア大統領 サンドロ・ペルティエニ



任期：1978年～1985年で「国民から最も愛された大統領」と呼ばれた。在任中のイタリアは、極左や極右によるテロが頻発して社会不安が広がった「鉛の時代」と呼ばれた。また、イルピニア地震後の大混乱やヴェルミチーノ事件を経験して、熱意のある全国からの支援が不完全なため組織的なシステムの構築が必要であると認識。その後、十分な知識と能力を備えた災害支援システムを運営する組織を目指し、1992年に法律の制定とともに市民保護局が設立された。

MANDATE AND TASKS 委任された権限とその活動



Forecasting 予測

Prev. / Prep. 事前準備

Response 対応

Recovery 復旧

・人間の生命と健康、インフラ、国の遺産、住居、動物、環境を、自然災害や人為的災害から保護するため



- ・48時間以内にTKB（避難生活避難所）を設置
- ・避難所環境が起因の死者はあり得ない！が共通認識

CIVIL PROTECTION VOLUNTEERS
志願者：職能支援者 (無償支援者と言う意味ではない)

ど、イタリアに何度も行きました。実際に災害にも行きましたし、いろんなボランティア団体にも行きました。そこで質問するんですよ 災害関連死はどれぐらい出てるんですか？先ほど日本は平成の30年間で5,000名出ました。イタリアはですね、誰に聞いても、いつ聞いても「そんなことありえない」ゼロと言います。本当かな？と思うのですが、先程の経緯も含めて、本当にですね「災害関連死を出さないために我々がいるんだ」という風な言い方をしましたので、どうも本当かなと思ってます。

しかもイタリアで災害支援をやってる方は、行政マンではなくて、実は民間人まさにボランティア。9割がボランティアです。但し職業を活かしたボランティア、職能支援者って言うんですけども、例えば、段ボール屋さんでしたら段ボールベッドを届けて、その設置をするとかですね、そういう職業に関連した支援をやってます。市民保護局のローマの本局には常駐が800人居ります。そしてボランティア団体がですね約4,000あると言われております。これも本当かな？と思ったんですけども、基礎自治体が8,000あって2つに1つ位ボランティア団体があるそうなんです。登録しているのが国民の5%に当たる300万人が登録をして、年に数度訓練を受けているわけです。先ほどの食事を提供してたコックさんも訓練を受けてるということです。このように非常に社会的な理解が進んでいて、例えば税金なんかも選択出来るそうで、災害支援といえば自分の税金がそこに振り分けられる。そういうように社会的な背景も非常に進んでいるのかと思います。

これがローマの市民保護局の建物の地下にあったモニタリングルームです。ここに災害支援に関わる団体全てが常駐しています。パーティションなし、要は縦割りなしにフラットな状態で24時間365日モニタリングをしています。例えば陸海空軍とか消防とか警察とか赤十字とか、その中にボランティア団体がありました。こういう状態で日本のように縦割りではないというか、縦割りの弊害をちゃんと知っていて、そうならないようにと言っていたので、ちゃんと理解してるんですね。そして災害がいざ起



- 市民保護局の職員800名 (ローマ)
- ボランティア団体約4,000 (2基礎自治体に1団体)
- 登録ボランティア約300万人

COMMAND, CONTROL, COORDINATION 命令、制御、調整

S.I.S.T.E.M.A.

- Monitoring and coordination centre
- 24/7/365
- Modular structure
- Supports the Operational Committee and/or the Crisis Unit



- Permanently staffed with personnel from:
- Department of Civil Protection 市民保護局
 - Fire Brigade 消防
 - Armed Forces 陸軍
 - Police 警察
 - Carabinieri 治安警察
 - Red Cross 赤十字
 - Financial Police 金融警察
 - Coast Guard 海岸警備隊

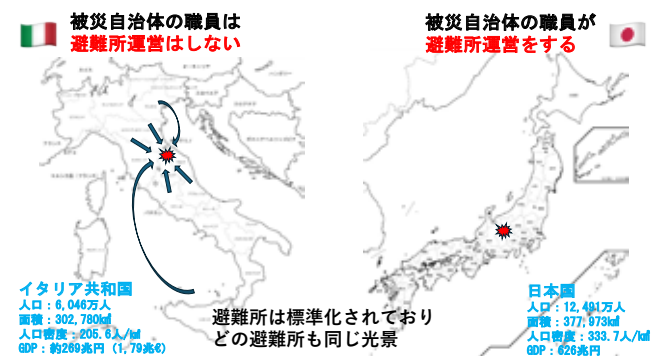
ローマの市民保護局では、各団体が同じフロアで24時間365日イタリア全土をモニタリング状況はインターネットを通じてボランティアも共有

DECISIONAL CAPABILITY 決定機関

An Operational Committee is set up within the Department of Civil Protection to ensure a joint and unified command and control of emergency management.

緊急事態管理の共同で統一された指揮統制を確保するために、市民保護局内に運営委員会が設置

- ラクイラ地震では発災30分後に災害対策会議開催
- 2時間後に支援部隊が出発
- 発災当日中に被災地でTKBが稼働



きた時に 30 分以内に災害対策会議が開催されて、2 時間後に先ほどの TKB を積んだトラック、20 台位の大型トラックが 2 時間後に災害支援出発した。ということで実際に被災地へ行って聞いたんですけど、その日の内に来たと言ってました。トイレと食事と寝る場所ですね 実際に来ているのです。

今回の能登もだいぶ時間経ってから、政府が災害対策の会議を開催しました。被害の全容が見えないので分からないって言うんですけども、被害の全容っていう情報が入ってこないこと自体が情報ですよ。連絡取れないわけです。日本は待ってるんです。イタリアが 2 時間後にはもう出発してる、この違いですよ。このような事は私は比較してあるのかなというふうに思いますし、あと特筆すべきことですが、イタリアは先ほど言ったように標準化をしますので、ありとあらゆる避難所が同じやり方をやってるので、その結果、被災自治体は避難所運営しないんです。例えば輪島市の職員は避難所に入らないのです。何故かと言いますと、周りから入ってくるから。被災を免れた自治体からボランティアが入ってくる。日本の場合は、災害対策基本法で、被災自治体が被災者を、要は住民を救助しなさいと書いてあるんですね。職員も被災者ですよ。被災者が支援をしなければならぬ、非常に酷な状態です。ですから標準化することによって、被災をま逃れた人が出来る、こうように大きな違いがあります。

日本は 1,741 自治体があるので 1,741 通りの避難所運営があります。イタリアはやり方 1 つです。日本は各市町によって違う。最後になりますが、イタリアで学んだことについて、まず「たった 1 人の犠牲者も出さない」と皆が言っている。これは共通認識となっている。これは是非学んで欲しい点です。被災者にとって敵は災害だと思いませんか。例えば地震であるとか津波が敵なんですけども、今能登では何が敵になってるか「絶望」です。今自分の生活が破壊されている。これからどうやって生きて行こう。絶望感が今敵になってるということで、国や行政だけじゃなくて社会全体で手厚い支援をお願いして頂きたいと思っています。

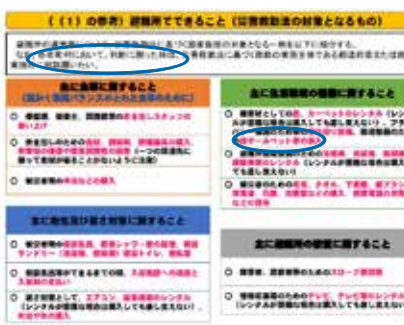
災害発生時の被災者支援に関する法律

内閣府防災担当 災害救助法の概要（令和2年度）



- ・災害発生前に避難は始まっている
- ・局地災害など小規模な災害は、救助主体は市町村
- ・広域災害など大規模な災害が起ると災害救助法が適用される
- ・災害救助法の適用後は、救助主体は市町村から都道府県に変わる
- ・ただし、都道府県は市町村に事務委任する為、実施主体は戻る
- ・市町村は災害救助法の適用に達しない、予算の関係から救助を躊躇う
- ・救助の遅延が被害を拡大させる

内閣府防災担当 災害救助法の概要（令和2年度）



- ・近年、災害救助法の対象物品は拡充してきている
 - ・しかし、同法適用は災害発生後に一定の被害が出てから
 - ・台風など事前に開設される避難所には適用されない
 - ・72時間は人命救助優先として避難所対応はそれに降る
 - ・その結果、避難所開設から 1 週間程度でようやく改善され始める
- 支援の逐次投入
支援は一気呵成

イタリア 被災自治体の職員は避難所運営を行わない

被災自治体の職員が関わらない仕組み

- ・被災者兼支援者の限界 → 外部支援者が避難所運営
- ・支援者支援の必要性 → 物的金銭的サポート
- ・避難所運営の標準化 → 濃淡のない支援

民間を含めた職能支援者制度の設置

- | 人的資源 | 装備 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 職能支援者制度の創設 職能者が中心の支援チームの創設 業界単位で有志を募り登録と訓練 災害救助法を活用した経費負担 支援活動への社会的理解と顕彰制度 | <ul style="list-style-type: none"> 必要機材のユニット化と事前備蓄 トイレ、シャワー キッチンカー、調理道具 テント、段ボールベッド その他資機材 |

避難所環境を向上させて災害関連死を無くすには

論点

- 関連死を防ぐための課題
- 救助法の7日間の括りは現実と乖離（数ヶ月以上）
- 支援の標準化（全国1,741市町村）
- 避難者を患者にしない（精神的+肉体的ダメージ）

関連死を防ぐ視点

- TKBの導入する仕組み（民間を含めオールジャパン）
- 災害支援の市町村任せの限界（外交と防衛と同等に）

防災専門の省庁の設置が必須

イタリアで学んだこと



- ・「たった1人の犠牲者も出さない」強い決意
- ・災害支援には哲学が必要
- ・あらゆる専門職種が関わる仕組み
- ・敵は「災害」であり守るのは国民である
- ・しかし被災者にとって本当の敵は「絶望」である
- ・その為に国レベルで標準化が必要

ご清聴ありがとうございます！



横浜瀬谷 RC 益田会長



横浜旭 RC 田川会長

■会長報告

田川 富男

本日は、多くの方々が合同例会に参加していただきありがとうございました。

水谷先生にはご講演を賜り有難うございました。元来、ロータリークラブは親睦をして友情を深め、より良い絆を作り、好意を図ることが大切な目的として仲間達が集まっています。

そして、その考えはクラブ内だけではなく、広く一般の方々に向けて好意と友情を深めることも大切として、色々な奉仕活動に発展して行きました。

ロータリークラブには、上下関係が有りません。他業種の方々の卓話、趣味の卓話など普段ならお会い出来ない方との交流もロータリーです。

聞いた話ですが、若かりし頃松下幸之助会員が受付案内係やビル・ゲイツ会員がスタッフメンバーだったりして考えられません。ですが、それがロータリーです。

本日は、多いに親睦を深めてください。

■米山奨学生紹介

田川会長



ロータリーの奉仕活動の中にて、留学されている方に対しての米山奨学金制度があります。世界の架け橋として母国と日本の為に勉学されている留学生を支援しています。

▶横浜旭クラブでは
米山奨学生の宋潤坤（中国）さん（中央）

▶横浜瀬谷クラブでは
米山奨学生のティエン（ベトナム）さん
奨学金をお渡しいたします。（右側）

横浜瀬谷 RC お客様のご紹介



丸田康一郎様



越川敬介様



大粒来知代様



筒井京子様



真船裕之様

横浜旭 RC お客様のご紹介



吉原貞行様



犬塚秀樹様



関澤信吾様



間室 豊様

2月に横浜旭 RC
特別会員となり
ました。
古川なおき様



■樋口ガバナー特別講話「ロータリークラブとは」

ロータリーというものはどういものかと申しますと、1905年2月23日が誕生日でございます。ですから先月119歳の誕生日を迎えただけになります。そして先程田川会長が仰られたように、始めから奉仕をすることを目的とした訳ではなく、ポールハリスという弁護士を始めとする4名でシカゴで始まったわけでございます。始めは2月23日に4人が集まった時に、トーク&トレード、ポールハリスは当時生き馬の目を盗むような風潮の中で、友達が欲しかった。寂しかったというのがロータリーを作った始まりだったんですけど、最初は親睦を深めて互助組織、お互い仕事をしようということだったんです。トーク&トレードもしかしたらロータリークラブではなく、トーク&トレードクラブになったかも知れませんが、といったことでやっていたんですけど、ドナルドカーターという人を誘った時、自分達の我欲と言いますか、私利私欲の為に入っているなら「私は入りたくない」と、この人が「何かシカゴに為になる事しよう」それを



やってくれるなら、私は入りますと言われました。

ロータリーの最初の奉仕というのは、先程水谷先生からお話がありましたように、トイレを造ったんです。シカゴに2ヶ所。当時は街にトイレが無かった。パブとかそういう所しか。そこで、公衆トイレを2箇所造ったのが社会奉仕活動の始まりです。ただ厳密に云うと奉仕団体ではないんです。

その後ロータリーは世界に広まり現在では200の国と地域、総会員数117万人、横浜瀬谷クラブさんと横浜旭クラブさんとかいうクラブが3万7千クラブあります。そして日本には2,200のクラブとロータリーの会員はロータリアンと云われていますが、ロータリアンは84,000人おります。また、これまで何回も2590地区と言っておりますが、世界ではクラブを地域割りして、世界に520の地区があつて、日本には34地区に分かれており、2590地区というエリアが横浜・川崎地区で、私が今年度地区代表のガバナーを務めさせていただいております。ですから私と同じ立場の方が、日本には34名居ることになります。

そして国際ロータリーの使命というものがああります。職業のある人から1業種1人という事から始まっておりますので、職業人と地域社会のリーダーのネットワークを通じて人々に奉仕し、高潔さを奨励し、世界理解と親善を平和を推進することといった使命があります。その通りロータリーの究極の目的は世界平和ということになります。今こういってご時世で、世界平和とかけ離れた状況ではございますが、ロータリーの最終的究極の目的は世界平和であります。

そしてロータリーのモットー、いろいろとベースになることもありますが、2つありまして1つが「超我の奉仕 (Service Above Self)」 「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる (He Profits Most Who Serves Best)」 とというのがあります。

サービス (Service) という言葉、ロータリーは当たり前のように出て来ます。それを日本語で「奉仕」という言葉に訳されてしまっており、

分かりずらくなってしまっていますが、「サービス」というのは人に役に立つこと。いろいろな務めというふうに訳するのが正しいのですが、日本語で「奉仕」といってしまっているの、見返りを求めない、尽くすというふうに勘違いされてしまうことがあるんですけど、本来は役に立つこと全てサービスとなります。

Service Above Self というのは我欲よりも先ず人に役に立つことをしましょう。

He Profits Most Who Serves Best 「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」と日本語で言われておりますが、先ずは人の為に尽くして、それがめぐりめぐって自分の為になるんだよというような意味をもっております。ですから日本語でも、「情けは人の為ならず」「積善の家に余慶あり」という言葉がありますが、先ずは家庭でも職業でも地域社会でも人の為に尽

くして、そしてめぐりめぐって自分に戻ってくる。ですからロータリーは見返りを求めないではなく、見返りがあっていいんです。何故なら、利益あげないと永続的な奉仕は出来ない事なので。そこで高潔性とか、高い倫理観が求められる。ですから、例会で日々皆様方と会い自分自身を磨いて、磨き上げた自分を、家庭で職場で広めて行くというのがロータリーということでございます。分かって頂けましたでしょうか、要は入れば分かるので、もし迷っていらっしゃる方がおられましたら、是非ロータリーに入ってもらって頂きまして、ロータリーライフを皆様と共に楽しんで頂きたいと思っております。

横浜瀬谷ロータリークラブ、横浜旭ロータリークラブ共に大好きなクラブですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

合同例会スナップ



ロータリーソング「手に手つないで」ソングリーダー福村会員



司会 北澤会員お疲れ様